

会派・創至メンバー

小形 善信 題佛 臣一 吉村 美幸 清水 一徳 中西 昭雄

## 会派・創至 語る会を開催

10月27日・28日・29日に、市内3会場で「市民の皆様方と会派・創至との語る会」を開催させていただきました。以下に列記致しましたとおり、多くの御意見を頂きました。皆様の意見・要望は会派内で協議のうえ議会活動に反映させてまいります。

■瓜生産業団地造成の件で欠損したが、議員はなぜ認めたのか、大問題とすべきである。損金の6,218万円は非常に重い金額である。我々の血税を大事に使い。頓挫理由は何か。誰も責任を取っていない。責任は誰がとったのか、議会での対応を教えてください。

■(仮)南越駅周辺まちづくり計画においてフォレストシティ、越前市版スーパーシティって何だ。現状の問題点は何か、新幹線駅前周辺整備は新幹線開業までに終わらせるべきである。道の駅周辺の開発については、先祖から受継いだ地である、見通しと早急な対応を問う。

■春日野川の整備をしてほしい。春日野町地籍の砂防ダム、土石流、の現場を見る。新幹線工事で大型ダンプが多く通過している、荒れた道路を早急に整備しろ。

■昨年の議会での語る会でも伝えたが「希望学園」の環境が非常に悪い。移転するときに関係者の意見を聞いたのか。当時の教育委員会の対応と考え方を疑いたい。

■議事録削除の件で全国的に越前市の恥を上塗りしてきたが、当事者の謝罪が見えない。謝罪をしっかりと。裁判費用は36万円だが負けた市議会議員が負担すべきである。

■新聞記事で越前市の債務状況を見たがどう償還するのか、市民に負担をかけないように。財政については危機感を非常に感じている、収入見通しに合っているのか。50年に一度のまちづくりで建設された施設の維持管理費の増加状況を知りたい。日々安泰な生活を求めている。子や孫に借金を残してまで投資をするな。夕張市と同じになる。

■市議会だよりが非常にみにくい。見せたい思いが伝わらない。

■冠山道が開通するが、越前市域の417号線周辺では経済効果を生かした開発を積極的にするべき。

■今立地域にて公有資産である土地などを売却するが、地域への還元を考慮せよ。

■武生駅前線の整備等でどれくらいの活性化があるのか、効果は期待できない、無駄を省け。

■藤波亭の改装では何の活性化と効果を計画するものか、無駄なことはするな。

■議員の政務活動費削減論は理解できない、議員に仕事をするなという事か。

■市長と議員とは車の両輪である。議員はブレーキとアクセルを上手に踏め、また、政策や予算の組み替えなどを提案できるほどであれ。

■福祉計画にて自助、互助、共助、公助、を計画しても「地域支合い」は実態に沿っていない。

■武生商業高校の学舎を有効利用し、学生がものづくりなどの勉強ができる場には。

多くのご意見をありがとうございました。今後も自由に発言できる場を設けてまいります。



## 市長に提言書提出

### 1 元気な産業づくり

- ・瓜生産業団地造成事業の中止の反省を踏まえ産業活性化プランの着実な推進と北陸新幹線南越駅(仮称)周辺エリアの具体的な開発計画と計画的進捗を定める。
- ・国道417号線の早期実現を目指し主体性をもって関連市町と共に要望活動を行うこと。
- ・並行在来線における関西・中京方面のアクセスについては快速電車の延伸を強く要望すること。

### 2 元気な人づくり

- ・高齢者の介護予防、健康づくりの推進に際し、地域包括支援センターの機能充実をさらに図り、介護予防、生活支援サービス事業に対し支援すること。
- ・今後も高齢化社会が進展していくなか、特に2025年、2040年を視野に入れた計画的な介護サービスの基盤整備を行うこと。
- ・外国人児童を取り巻く現状を認識し、日本人児童の取り巻く環境も鑑みながらさらなる多文化共生社会の充実と、外国人市民を雇用する企業と連携し子育て支援に対し企業内保育を要請し、同時に学校等での外国人児童に対する支援を継続的に行うよう取り組んでいくこと。



### 3 快適で住みよいまちづくり

- ・中心市街地が「越前市の顔」として活性化できるよう、引き続き賑わいの創出、居住促進、商業振興に対し支援を行うこと。
- ・中央公園はもとより、文化センター・市立図書館周辺の駐車場の確保を図る事。

### 4 安全で安心なまちづくり

- ・中心市街地の老朽空家の対策については支援を拡充し、さらに危険老朽空家に対する市の強制力強化を図る事。
- ・通学路や横断歩道、歩道のバリアフリー化など、人優先の生活道路の整備や融雪装置等の環境整備、市民生活に密着した社会基盤整備を優先すること。

### 5 市民が主役のまちづくり

- ・地域自治振興事業の内容や交付金の在り方については、自治連合会と協議をしながら見直しを図っていくこと。

## 小形 善信



「会派・創至」は、二元代表制の一翼を担う重大な責務のもと、地方公共団体の事務執行の監視機能及び政策立案機能を十分に発揮しながら、日本国憲法に定める地方自治の本旨を目指すものとして、会派各員を尊重しつつ自由闊達な討議を旨としながら市民の負託に応えるべく活動しようとして結成いたしました。

会派の活動と致しましては、なるべく多く市内全域の皆様方からの御意見を聴取すべく、「創至・主催の語る会」を市内3会場で開催させていただきました。多くの御意見を承りますと共に好評化を得てきたところであり、今後も同様の「語る会」を定期的で開催させ

ていただきます。我々「会派・創至」では全体の奉仕者であるとの信念の元、「志」を一つにした活動をしてまいりたいと決意している所であり、今後ともご支援とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

さて、私は行政監視として、越前市の総合計画達成度評価について、外部評価導入のあり方、及び、中央公園周辺の不動産売却と、駐車場整備について質し。

政策立案については、電子自治体の推進は当然ながら、その先を見据えた質の高いサービスを市民に提供するには、AI・IoT(人工知能等)を導入し、効果的・効率的な行政運営にすると提案。

また、住民の安全を保つ為の国の方針では、これまでより1.5倍もの大幅な事業拡大予算となることから、国土強靱化地域計画での当市の積極的な予算獲得についても提言を致しました。今後ともアンテナを高くして、政策提案に結びつくような議会活動を致したいと思っております。皆様のご支援をお願い致します。

## 題佛 臣一



### 「市民の意見を反映するのが 議会の責任と役割」

2021年がスタートいたしました。新型コロナウイルス感染症拡大の直撃を受けた市内の企業は、いまだ回復の見通しがたっていない。感染収束の兆しは見え、コロナ禍の中でどう中小企業・小規模事業者が生き残っていくかが勝負の年になってくると考えられます。コロナに負けない前向きな取り組みとして事業所等応援補助金や地域応援商品券などの市の取り組みは一定の評価はできるが、休業を余儀なくされ

た企業や経営自体が継続できない企業にとっては、満足の出来る支援とは言えません。今年も、コロナ禍の中での雇用問題や福祉分野の支援体制が重要な課題となってきます。更に今年も、労働分野の制度改正が新たに始まってきます。派遣労働者からの苦情対応を義務付け、障がい者の法定雇用率を0.1ポイント引き上げ、社員70歳までの就業機会確保の努力義務、「同一労働同一賃金」の規定を中小企業にも適用など、働き方にも大きな転換になってきます。また昨年の12月に突然、明らかにされた新幹線敦賀開業の遅れや建設費の増額に伴う財政負担を沿線自治体に求めることは許されない事であり、市の課題は山積みです。今年も会派創至は市政チェックの役割を果たして参ります。



### 語る会大盛況!



令和2年12月議会では ■政策決定プロセスについて ■人生100年時代における越前市の高齢者支援 ■デジタル化への考え方・方向性の3点になど、今回で26回目の一般質問をさせていただきます。

私は、その時々の問題点を提起させていただいてきましたが、やはり財政、子育て、高齢者問題での質問が絶対的に多く、平成27年9月の議会から“半世紀に一度のまちづくり”について財政面での質問をしております。

令和2年は新型コロナウイルス感染拡大防止において、“感染症対策の補正予算が相当組まれましたが、令和2年12月までの補正予算において、総額99億3,194万7千円が新型コロナウイルス感染症対応での予算、及び地方創生臨時交付金として執行される予定ですが、12月17日

現在ではまだまだ執行率の低い事業もある状況です。

ところで、今日までの努力の割りに越前市の財政は健全化できていないと私は思っています。



## 吉村 美幸

半世紀に一度のまちづくりで建設された施設の管理費用も相当な金額となってきており、人口減少と超高齢化社会において、高齢者支援や子育て支援の経費がまだまだ増大してきます。

市当局より財政については健全化を図り、計画的、効率的、効果的な財政運営を行うとの答弁は毎回聞いておりますが、なぜ執行率が低いのか精査しながら次の議会に繋ぎたいと思っています。

今後とも、本当に必要な事業にはしっかりと予算付け出来るよう提言してまいります。

## 中西 昭雄



令和2年12月の議会では会派の代表質問を行いました。越前市総合計画の「まちづくりの5本の柱」に沿って、私たち会派が課題としている16項目について質問しました。そのなかで私自身が特に注目しているテーマについてご報告いたします。

**Q.**既存市営住宅の適切な維持管理と今後の需要予測に基づく供給予測について問う。

**A.**居住性向上のため特に給排水、給湯器設備、屋根防水、断熱工事を中心に改修を延1031戸(維持管理予定戸数781戸)行った、また今後の

需要予測では2045年に412戸余剰となる見込みだが、今後困窮世帯の増など短期的な変動については住宅局、福祉部局と連携して対応していきたい。

**Q.**来年度最終年度を迎える中心市街地活性化基本計画について今後の課題や対策についてどのように考えるか、また老朽空き家を含め、中心市街地の木造住宅密集地域の安心安全の確保や整備についての考えは。

**A.**令和2年度末に庁舎前広場が完成し、令和4年度末に北府駅鉄道ミュージアムの完成予定など「まちの顔づくり」のためのハード整備事業は終了する、今後は賑わい創出や、商業・居住施策によるソフト事業の推進が重要である。

老朽空き家対策は危険な空き家の解体撤去の促進や空き家等の各種活用策などの取り組みを図り、また木造住宅の耐震診断、耐震改修に対する補助制度を設け、併せて防火対策工事に対する補助金加算を行うなど今後とも積極的に市民の安全確保を進めていく。

質問の冒頭に、コロナ禍だからこそ異なる意見であっても尊重する事や、融

和を図る「和を以て貴しとなす」の精神を持って議会に臨むことの大事さを訴えた後、「会派での市民との語る会」で指摘されました件を質問致しました。

**Q.**希望学園の現在の場所は、児童生徒の活動場所として、十分か、課題はないのか。

**A.**登録人数が増え、一時的に20人近くに達することもあります。教室が不足する場合は、隣接する相談室を利用し対応している。

運動する場合は、週1回AW-Iスポーツアリーナを利用している。交通の結節点である駅前に立地していることで、子供の力で通園できる可能性や社会的自立学習の機会の増加が期待できる。市の中心部に位置しており、遠方に住んで居る場合でも、保護者があまり時間をかけずに送迎できることから移動は考えていない。

**Q.**越前和紙産業の課題で、伝統産業と文化財保



## 清水 一徳

護の両面から、産業政策課と教育委員会の連携を密にすべきではないか。

**A.**越前和紙は、全国に誇る伝統産業であるとともに、市の歴史や文化を語るうえで欠かせない、貴重な文化財です。また、越前和紙は、絵画や書など、他の文化財を生み出すと共に、文化財修復にも多く使われる重要な素材でもあります。今後も国や県を始め、庁内の関係部署と連携を密にし、文化財保護に務めるとともに、伝統産業の特性を生かし、本市の魅力を最大限に引き出してまいります。